

子ども多文化共生センター通信(テラたま通信)

Multicultural Children's Center News

発行元 子ども多文化共生センター TEL 0797-35-4537

発行日 2026(令和8)年3月18日(水)

ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

第97号



テラたま
(イメージキャラクター)

2025(令和7)年度も終わりを迎えようとしています。今年度は大阪・関西万博があり、本県にも海外から多くの訪日客がありました。2025年の年間訪日外客数は42,683,600人で過去最高を更新しました(日本政府観光局)。一方、ミラノ・コルティナ・オリンピックで日本選手団は、冬季五輪過去最多の24個ものメダルを獲得しました。現役引退を発表した本県出身の坂本花織選手は2つのメダルを獲得し、閉会式では日本選手団の旗手を務めました。坂本選手の最後の勇姿に県民のみなさんも元気をもらったことと思います。

日本語指導に関する取り組み

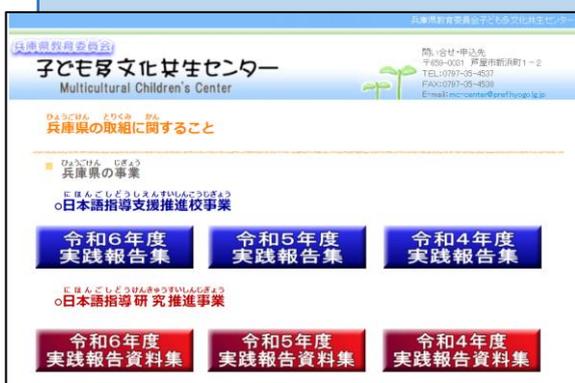
日本語指導に関して、兵庫県教育委員会事務局人権教育課においては「日本語指導支援推進校事業」と「日本語指導研究推進事業」を実施しています。いずれの事業報告も当センターホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

日本語指導支援推進校事業

日本語指導が必要な外国人児童生徒等は、日本語(生活言語・学習言語)の習得と基礎学力の定着を図ることが極めて難しいため、自己実現を図ることができない状況を踏まえて、対象の児童生徒に対し、日本語による日本語能力向上のための支援を行うため、市町と連携して日本語指導支援推進校事業を実施しています。

日本語指導研究推進事業

「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」のもと、「人権教育基本方針」及び「外国人児童生徒にかかわる教育指針」に基づき、外国人児童生徒等の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に豊かに共生する心を育成するため、日本語指導及び子ども多文化共生教育の在り方について実践的な研究や、日本語指導指導者を養成するための研究を行っています。



掲載ページ



令和7年度分は準備が整い次第、ホームページに掲載するわ。



サポーター交流会のご報告

3月13日(金)、サポーター交流会を県立芦屋国際中等教育学校の会議室で実施しました。近年では最大規模の19名のサポーターのみなさまにご参加いただきました。お忙しい中、ご参加いただき、ありがとうございました。日ごろの教育活動で感じている課題について活発な意見交換が行われました(#^.^#)

県庁前駅広報ショーウィンドー展示

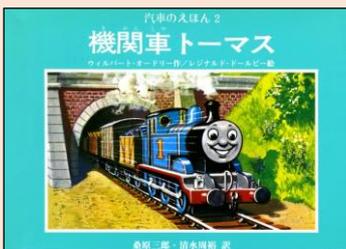
神戸市営地下鉄県庁前駅広報ショーウィンドーで当センターの紹介を行いました。教科書をはじめ、セパタクロー（タイ）、コンギ（韓国・朝鮮）、ジェンズ（中国）、ペテカ（ブラジル）、魔除けのお面（スリランカ）、サーランギー（ネパール）、ジーカ（インド）、ラチェット（インドネシア）、トルン（ベトナム）、パロデジュピア（ペルー）、スコートゥーイ（カンボジア）、馬頭琴（モンゴル）、カリンバ（アフリカ）、民族衣装（モロッコ、韓国、ペルー）など、様々な国の文化を知るきっかけとなる資料を展示しました。



世界で人気の「きかんしゃトーマス」

1945年トーマスの原作絵本である「汽車のえほん」シリーズの第1巻『三だいの機関車』が出版され、2025年で原作絵本の出版から80周年を迎えました。トーマス自体は第2巻『機関車トーマス』で初めて登場しています。はしかを患い病床にいた息子のクリストファーのために、原作者であるウィルバート・オードリーさんが聞かせた機関車の物語がはじまりです。1984年にはテレビアニメ「きかんしゃトーマスとなかまたち」がイギリスで放送されました。現在では世界180以上の地域において55の言語で放送されていますので、外国からきた子どもたちの多くもトーマスを知っているのではないのでしょうか。

トーマスは日本では1990年にフジテレビでテレビアニメが放送され、2012年以降はNHK Eテレビで放送されています。初めは鉄道模型を使った「モデルアニメーション」でしたが、日本で2010年にスタートした第13シリーズでは3DCGアニメーションに変更されました。2022年の第25シリーズでは2Dルックのアニメーションに変更されています。日本でも大人気のトーマスは国境を超えた話題の一つになりえると言えます。子どもたちとサポーターのみなさまの間の世代を超えた話題にもなるような気がします。



【参考】

『きかんしゃトーマス大図鑑』ポプラ社、2015

Walkerplus「【80周年】きかんしゃトーマスの歴史を振り返ろう！懐かしのモデル（鉄道模型）から3D、2Dへ」（2026年3月1日閲覧）

編集後記

2025（令和7）年度も終わりを迎えます。この1年間、「田」んぼや「沼」があり、「小川」が流れ、「原」っぱがあるという「日本の原風景」のような田沼、小川、原の3名でセンターを運営してきました。至らない点もあったかと思いますが、みなさま方のお陰で無事に勤めを果たすことができました。ありがとうございました。心から感謝申し上げます m(_ _)m



子ども多文化共生センター 芦屋市新浜町1-2

TEL: 0797-35-4537 FAX: 0797-35-4538 E-mail: mc-center@pref.hyogo.lg.jp

ホームページから様々な情報を発信しています。http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/

外国人児童生徒の支援、子ども多文化共生教育に関わることなどについて、お気軽にご相談ください。